

日本共产党

芝 和也 Eメール info@k-shiba.jp
川西町結崎862-7 0745-43-2411
吉田 容工Eメール katunori_yosida@ybb.ne.jp
田原本町大木113-5 090-5257-4441
森 良子 Eメール qfndg008@ybb.ne.jp
田原本町鍵281-1 0744-33-8577
(事務局) 池田年夫Eメール uvkk87386@zeus.eonet.ne.jp
三室町屏風440-5 0745-43-2661

「危険人物」扱いされる危険があるのです
知らぬ間に：戦争

政府は、米国との秘密情報を共有する
ためにこの法案が必要だといいます。
しかし、2003年、日本はイラクに
大量破壊兵器があるという米国からのウ
ソの情報をもとに、開戦を支持し、自衛
隊を派兵しました。

かつての日本の侵略戦争も「大本營」
発表で突き進んでいきました。

根拠の情報が秘密にされれば、国民は
おろか国会でまともな議論すら経ること
なく、戦争をはじめることがあります。
眞実がわからなければ、国民には憲法

しかし、市民と「テロリスト」の区別が、外見でつくわけではありません。2010年に流出した公安警察の捜査資料から判明したのは、当局がイスラム教徒を無差別に「テロリスト」扱いする、思想・信条に踏み込んだ監視活動の実態でした。

盗聴やおとり捜査で知らない間に私たち

秘密を扱う公務員や武器関連メーカーの社員には、秘密を漏らすおそれがないか、「危険人物」との接触がないか、国が監視することになります。

書かれたまゝや、何の裏の裏いかないがために、
ているか、その核心が秘密だからです。
起訴状にも犯した罪の内容が書かれたまゝ
い。これではどうして訴えられたのか
が本人にもわからず、裁判の場で弁明の
しようがありません。

その秘密を知ろうとすれば、弁護士や
裁判官まで逮捕されてしまします。有罪
の認定も、罪の核心が明らかにされない
ままの暗黒裁判です。

住民同士で話し合つたりしただけで、ある日突然警察から同行を求められたり、逮捕されたりする可能性もあります。

知らぬまま：裁判

「何が秘密かもヒミツ」ということは、もし私たちが逮捕され、国と裁判を争うことになったときも、恐ろしい事態をもたらします。

あ な た が 狂 わ れ る

秘密が漏れることを防ぐためのものと説明します。しかし、その周りの人有限定されています。
処罰や捜査の対象は、公務員と民が処罰されることを認めています。
秘密を知らうと話し合ったり（共謀）、他人に勧めたり（教唆）大勢の人に呼びかけたり（扇動）するだけで処罰できるしくみだからです。
最大の問題は、そもそも国威には「何が秘密かもヒミツ」ということ。
事故が心配で原発のことを調べたり、米軍基地被害のことを見

国会で審議中の秘密保護法案への不安や懸念が今、国民のあいだに急速に広がっています。それは、法案が国民の目、耳、口をふさぎ、憲法が保障する基本的人権をじゅうりんする「新しい治安維持法」（日本共産党の志位和夫委員長）であることが明らかになってきたからです。矛先は国民全体に向けられています。与党は26日にも採決を狙いますが、法案はきっぱり廃案にする以外にありません。

住民同士で話し合つたりしただけで、ある日突然警察から同行を求められたり、逮捕されたりする可能性もあります。

欧洲では知る権利を拡大
ドイツ 報道の自由強化法
フランス 情報源の秘匿強
化

「民の知る権利」を拡大する法改正が進んでいます。ドイツでは、国防機密に対するスペイン行為や公務員の守秘義務違反を「秘密漏えい罪」として、5年以下の禁錮と定めています。しかし、ジャーナリストの報道については昨年6月、「報道の自由強化法」が連邦議会で採択、施行され、ジャーナリストを漏えい罪の対象として起訴することがきわめて難しくなっています。同法ができたきっかけは、2007年2月の憲法裁判所の判決でした。

当局の秘密文書を元に国際テロ組織アルカイダの活動を報道したことに対し、編集部とブルーノ・シラー記者が警察の家宅捜索を受け、資料を押収されました。判決は、機密漏えいをほう助したという疑いだけでは、家宅捜索と資料押収を正当化できないとしました。

判決を受け、政府が報道の自由強化法案を議会に提出。連邦参議院（上院）は法案採択にあたって「機密漏えいをほう助で罪を問うことは、ジャーナリストが国に批判的な取材をし、報道することを妨げることになる」と説明しました。

法律上、機密漏えいのほう助そのものの

はまだ処罰の対象ですが、「機密漏えいの重要な容疑がはつきりとした事実で裏付けられている場合のみ、刑事手続きが進められる」と厳しい条件がついています。ジャーナリストを機密漏えい罪で問うことはほとんど不可能になっています。

ブランズでも、司法当局による記者の編集者への家宅捜索に抗議した全国記者組合（ＳＮＪ）などの取り組みで2010年、「情報源の秘匿」を強化する法改正が実現。同法は、メディアに対する当局の捜査を制限し、記者らが法廷で証言する際に情報源を秘匿することを認めています。

祝！川西小学校

先週は比較的穏やかでしたね。ただ、今週末からは再び冷え込んで来るとの事ですから、何かにつけご自愛ください。

こうした中、二十二日に川西小学校の校舎棟が完成し、五・六年生の児童を始め関係者が見守る中、定礎式と竣工式が行われ、この日の午後と翌日の二日間、一般の見学会が開かれました。

竣工式では、児童を代表した六年生の男女二人から、新しい学校の建設に対する心のこもった謝辞が述べられると共に将来に向けての決意がしっかりと語られました。私は、これから先、この施設がしっかりと活用されて、川西町の学校教育の発展はもちろんのことです。

が、これらを通じて培われた新たな人格が、今後の川西町の営みをしっかりと築いて行ってくれるよう、大いに期待を寄せて次第です。

全国の自治体はこうして営みをしっかりと果たそうと奔走していますが、安倍内閣は、高校授業料の無償化撤回ですし、子どもやその教育に与える影響も懸念される、ギャンブル合法化を狙ったカジノ法案を仕上げようとされています。既に教育基本法を変え、今度は憲法を変えようと意気盛んですが、その中身、一連の行いからも如何に歪んでいるかが容易に想像できますね。



川西町議会

洪水対策について 質問します

十二月三日予定の十二月議会一般質問で、洪水対策について質問します。平成十九年に洪水対策についてまとった質問をした時に、出てきた回答は、①平成十二年から十八年の間の農地転用等で、約三七〇〇トンの保水能力が下がったこと②かんじょう川と寺川の合流体形を変更したら改善するか？専門家に聞く③大和川の井堰管理に努める④ため池の保水能力アップに努める、というものでした。

この間の努力の結果を
確認させてもらいます。

今回、担当課とヒアリン
グした状況では、寺川の



西側対策は、調整池を何か所か作つて一時的に流入量を緩和する。寺川の東側は、田んぼダムを広げていく。田んぼダムは、田んぼの水門にこれまでより高い板を立て（十五～一〇センチ）、貯水量を確保する制度だそうです。これらの対策が、どこまで有効か？ 否定するつもりはありませんが、まだ不明です。そこで、いつも水害の発生する地域ごとの対策を立てるとも同時に進めるよう求めていきます。

求められる無人化
対策

先日、屏風団地の住民から石見駅の無人化について次のような要望が寄せられました。「家は手押し車を使っている。先日石見駅構内の踏切を利用している時に、線路の溝に前輪が引っ掛けたり倒れ、手押し車に乗つていける方も放降り出されてしまった。駅員がすぐに来て助けてくれたので本当に助かりました。電車が来る4分前の出来事でした。無人化になつて今言つ

先日、駅前で早朝宣伝している時に、高校生が電車に乘ろうとして走って駅の北側の踏切を渡ろうとして線路の溝につまずき、倒れるところを目撃しました。本人は無事に歩いて電車に乗れましたが、いつ事故が起ころかわからない状態です。

近鉄は12月下旬から石見駅を無人化するといっています。安全対策と無人化させないためにどうしたらいいのかみんなの知恵を出し合おう



先日、駅前で早朝宣伝している時に、高校生が電車に乘ろうとして走って駅の北側の踏切を渡ろうとして線路の溝につまずき、倒れるところを目撃しました。本人は無事に歩いて電車に乗れましたが、いつ事故が起ころかわからない状態です。

近鉄は12月下旬から石見駅を無人化するといっています。安全対策と無人化させないためにどうしたらいいのかみんなの知恵を出し合おう

私の壁つて？

私の壁つて？

数日前、新聞のある記事を切り抜いた時、書籍の広告にふと目が落ちた。そこには大きく「さだまさし」の文字。「あつ、まっさん、又本を出版したんや！」とワクワクしながらその広告を切り取り、本屋に直行した。生憎、本屋には無く取り寄せで貰う事になつた。

数日後、その本は手に入つたものの私は愕然とした。それは「こわせない壁はない」～人生が新しくなる33の心得～鎌田 實。そそつかしい私の勘違いで、さだまさしさんが推薦したのを執筆してると思い込んでいたようだ。



白いあごひげでテレビコマーシャル（大人の紙パンツだったかな？）でも見かける有名な医師。しかし、まっさんの推薦だけあって期待は裏切られず、何回涙したとか・・・

今月の5日に発行されただけあり、内容も新しく、33人の壁を乗り越えた感動的な人生が記されている。読み終えて、「私の壁って何だろう？」その壁をこわしたらどんな新しい生き方が始まるのだろう？」と考えこんだ。ほんの少し心の幅が広がったような気がした。